

私のハウスメロン栽培について

千葉県山武郡横芝町

若 梅 健 司

前にダイレクト・セル苗を利用した抑制トマト栽培と題して述べた事があるが、今回はハウスメロン栽培について書いてみたいと思う。

昭和45年にメロン～トマトの輪作体系でハウス栽培を導入して30年が過ぎるが、今までこれと言って大きな失敗もせず今日まで来た。しかしながら毎年色々な反省点も残して来た。

そんな事を踏まえた中で、今までに経験したことを述べたいと思う。

1. 床土の準備と育苗

近年、購入培土の利用が多くなって来たが、排水性、通気性が良く、かつ保水性の良いものが要求される。

ウリ類はナス科植物に比べて軽い培土、いわゆる酸素の多く含んだ培土が良い。今までいろいろと依頼を受けて市販培土を試験使用したが、自分の培土に勝ったものは無かった。

チッソ旭肥料の今までのものもそうであったが、今回の「新果菜類専用培土」については、発芽揃・発芽勢ともに良く、なんとと言っても子葉の展開が良く、よじれ葉等の奇形の発生も殆ど無かった。

これは培土の物理性が良いこと、炭入りによるイオン（電子）の効果が有ると思う。同じチッソ150mg（1リットルあたり）の含有量であっても、元床、鉢上げ用として使用した場合「新果菜類専用培土」は徒長しない。

メロン等ウリ科は全穴播種すると子葉、本葉がナス科に比べて大きく、切り込みも少ない。そのため、ともに重なり合い光線量も少なくなり、過温ぎみになるので、葉が薄く軟弱徒長となり病気（バト病等）が発生し易くなる。そこで、ダイレクト・セル苗（セル苗の直接定植）を55穴中央1列抜き（44穴）で試験をしてみたところ、ガッチ

りした苗を作ることが出来た。

2. 圃場の準備

メロンの場合、後半まで草勢を維持しなければ内容の良い果実が収穫出来ないのので、クロルピクリンもしくはサンヒュームを使用したいが、殺菌剤を連用すると微生物群のバランスが崩れるようである。また、効果面でも初年度に比べて劣る。

しかし、ネコブ線虫が少しでも寄生するとメロンは後半スタミナが無くなる。平成10年度はネマ対策としてDD・ネマトリンで作付けした。一部圃場はサンヒューム規制に備えバスアミドの試験区を2年行っている。いずれの区も後半までスタミナ配分は良かった。処理後1ヶ月位してからトラクターで、まず、DD・バスアミドのガス抜きをする。バスアミドは入念に2回行う。

そして、ベッドの中央になる部分にトレンチャーで溝を掘り、その中に稲ワラ（半熟）を10aあたり水田20～25a分入れる。

それから頭上灌水等で5時間位灌水する。一部水が溢れる位行う。一両日置いてもう一度灌水することもある。これは地下に養分と水分を貯金する目的で行う。定植後メロンの根は水と肥料を求めて深く広く張る。これが後半のスタミナに関係する。

3. 元肥

私の圃場は30年連作区と10年連作区の2通りとなっている。いずれも長期展張フィルム（フッ素系）なので雨水はまったく入らないため余分な物を洗い流すことが出来ない。30年連作区はリン酸、加里が過剰気味である。

土壌によって差があるが、一両日してトラクターが圃場に入れるようになったら元肥を施す。溝のワラの部分に脱窒素作用を防ぐため普通化成で20kg位（窒素成分で3kg位）を肥料設計の他に

施す(表1)。

堆肥(籾殻堆肥)は毎年2~3トンは入れるように心がけている。腐植を増し本圃も床土に少しでも近い物理性にすることが重要である。活着も良ければその後の生育も良い。

肥料設計に基づいて全面散布し、トラクターでなるべく深く耕しベッドを作る。8m間口のハウスで4ベッド作り、ベッドは高さ20~30cm位に仕上げる。マルチで包む形になるので高い方が地温の確保も良い。定植位置から15cm位のところに灌水パイプを敷く。10日前位に作業をすませトンネルの準備をする。地温18°C位(地下20cm)

4. 定植と整枝(図1)

気温の高めな穏やかな日に植える。這作りで1ベッド1条、株間55~60cm、立作りでは1ベッド2条、株間50cmで無摘芯の苗を植える。

這作りは前進栽培、立作りは上物を目的としている。いずれも一長一短がある。2月下旬定植でトンネル2枚掛け、またはカーテン、水封マルチ等で保温する。

這作りでは子づる2本仕立てとし、10~12節までの孫づるを除去しその上の結果枝に着果させ連続2果を残す。

5. 交配と草勢バランス

交配は蜜蜂を使う。開花の2~3日前にハウス内に入れるが、その前に病害虫の予防をしておく。

この際、特に殺虫剤使用については注意する。オル

表1 ハウスメロンの施肥設計(基肥)

(kg)

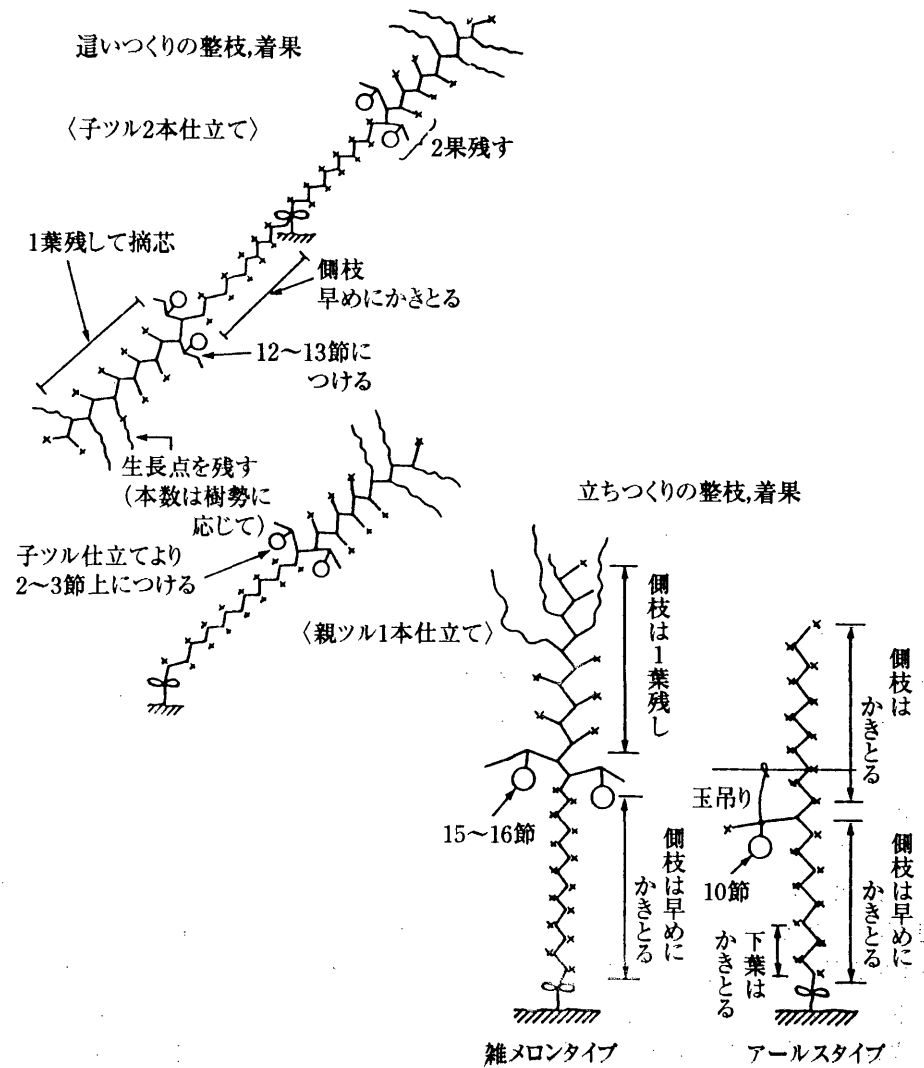
	苦土石灰	苦土重焼燐	トマト専用ロングショウカル244	S248	エスカ有機	堆肥(モミガラ)
30年連作区	100	-	70	30	350	2,000
			スーパーロング424			
10年連作区	100	20	60	30	350	2,000

*追肥なし

ラン、アトマイヤー等は長期間影響が出るのでマブリック、ベストガード等の農薬を使う。

メロンも栄養生長と生殖生長のバランスが花芽の充実、そして着果に関係する。メロンは生育初期は丸葉で軟らかいが、生殖生長に傾いてくると葉に切り込みが入ってくる。この切り込みの割合でバランスを読む。切り込みが多いほど花芽が充

図1 這いつくりと立ちつくり



実している。充実していれば黄色い良い花が咲く。蜜蜂も喜んで蜜を集めに来るのでよく着果する。

また、温度も深い関係がある。交配前3日の温度が高ければ着果が良く、着果3日の温度が高ければ果実の肥大が良い。

開花時の気温が低ければ花粉の発生が悪いので、蜂が働いても着果しない。こんな時はホルモン処理をする。朝最低気温 10°C を割り込み 7°C 位な日が2日以上続く場合はホルモン処理に切り替える。しかし、併用すると蜂が臭気を嫌うので気を付ける。

トマトーン 30~50 倍、ジベレリン 200PPM を使う。着果後の肥大はホルモン処理の方が遅い。着果し鶏卵大になったら連続2果残して摘果し、這作りでは玉台を敷き立作りでは品種によっては玉吊りをする。

この時期からまた栄養生長気味になるようにし、果実の肥大を図る。そのためには追肥をするか、元肥の使い方を工夫する。私はロング肥料を使いこの頃から効き出すよう工夫している。また、むらのない灌水をすることで果実が肥大して

くる。玉しめ時期に入ると縦ネットが発生し、一時肥大が止まり生長点が伸びてくるので、灌水し肥大が始まり内容が充実し糖度が上がってくる。

栄養生長と生殖生長の繰り返しとバランス、この辺のところを読むのがメロン作りのこつとなる。収穫10日前後から結果枝葉に苦土欠乏症が見え出す。メロン作りはこの時期の草勢バランスを夢見て作る(図2)。

6. 収穫

苦土欠が出、玉肌が下から上に脱色してくる。尻の部分に小さい「ひび」が入って来たら試し切りをして糖度を確認をし、16度を目安にして収穫に入る。

7. 平成10年度の試験

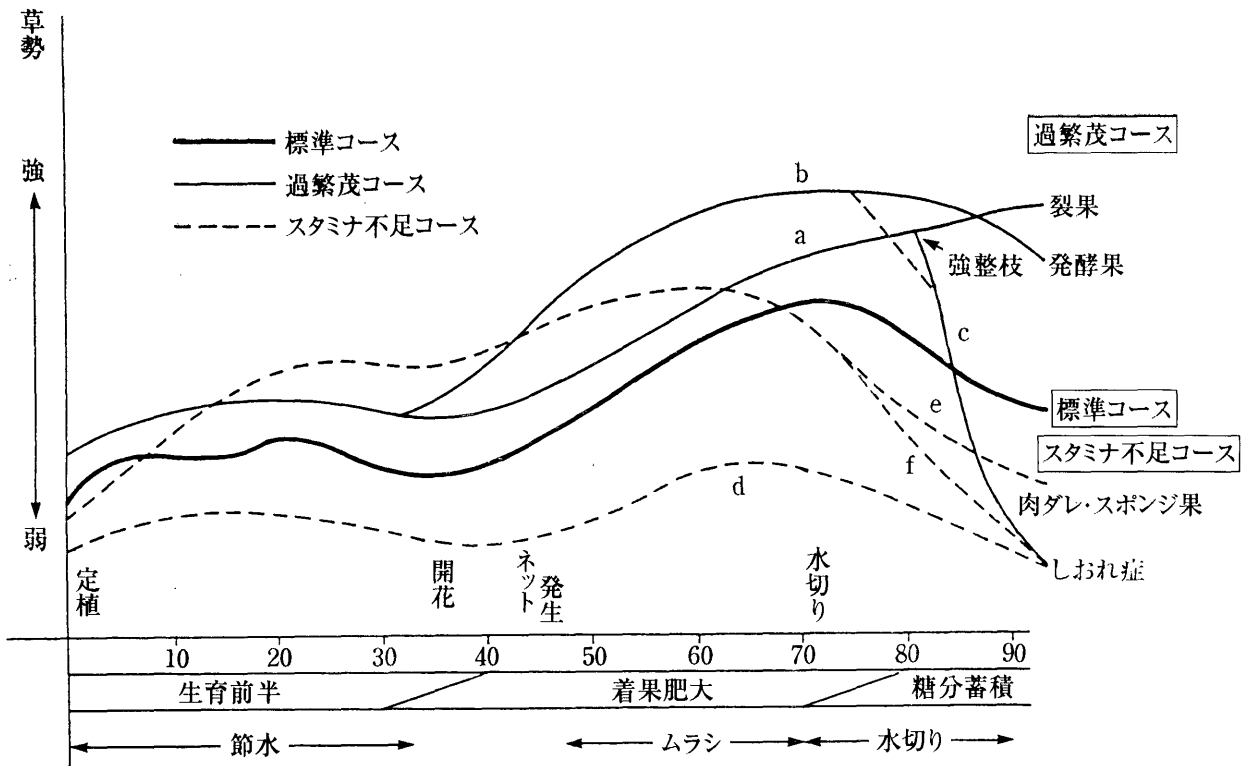
① 育苗試験

慣行育苗は播種後9~10日で3.5寸に鉢上げ、

育苗試験 (平成10年月日)

試験区	播種	鉢上げ	定植	交配	収穫
45日苗	1.17	1.26	2.28	4.2	5.29
40日苗	1.26	2.5	2.28	4.10	6.10
ダイレクトセル苗	2.6	-	3.6	4.15	6.13

図2 草勢からみたつの生育タイプ (模式図)



育苗日数45日3葉摘芯苗と育苗日数40日(定植後摘芯)の2通りを、これにダイレクト・セル苗を加えた。

②品種試験

緑肉系ネイルメロン、赤肉系フローレンスの他10品種程試験した。

本年は天候不順であったので、昨年に比べ若干ネットの盛り上がり弱く、糖度も0.5~1程度低かった。

毎年、普及センター、県改良課、農協、日本農業新聞、県農業大学校、町役場産業課等30人以上集まり内容調査しているが、これも年中行事となった。

8. まとめ

メロン作りのコツは育苗培土の使い方、そして、健苗作り、定植後の草勢バランスの取り方、肥料の効かし方(ロング肥料の使い分け等)である。そして、収穫10日前の草勢バランスを夢見て作る事にあると思う。

メロン品種試験結果

(平成10年)

品種名	1果重(g)	縦径(mm)	横径(mm)	糖度		食味評価
				種回り	中心	
サカタA	1,305	136.2	131.6	14.7	10.3	3.31
サカタB	2,515	176.0	178.0	17.0	14.0	4.25
サカタC	1,915	158.5	153.5	16.0	9.1	3.21
ナイル	1,763	149.3	145.6	15.7	13.0	3.88
タカミ	1,475	143.0	136.4	17.0	12.4	3.98
サカタD	1,543	144.6	145.1	15.2	10.5	3.13
サカタE	1,608	143.3	144.2	15.9	12.7	3.13
タキイ123	1,900	157.3	157.4	16.2	11.1	2.54
ミーナ	1,760	143.2	150.4	16.0	11.0	2.31
フローレンス	1,785	160.3	146.1	16.2	10.3	3.19
KKM-2	718	122.3	105.5	17.3	11.5	3.10
KKM-3	1,440	155.8	133.6	12.8	9.7	2.75

食味評価は1~5の5段階,24人による評価の平均値

メロン食味評価結果(追熟調査, 収穫6日後)

品種名	糖度	食味評価	順位
NO.169	15.0	3.24	3
NO.175	15.0	2.70	7
ナイル	16.0	3.21	4
緑の妖精	15.5	2.31	9
フローレンス	16.2	2.89	6
T-123	16.0	2.52	8
K6-177	15.0	1.76	11
ミーナ	15.0	3.90	2
KKM-3	11.5	1.80	10
タカミ	15.5	4.37	1
167	15.0	2.90	5

食味評価は1~5の5段階,24~30人による評価の平均値